



No. 96

発行人・渋沢茂

発行所・(社) 千葉県社会福祉士会事務局

〒260-0026

千葉県千葉市中央区千葉港7-1

塚本千葉第五ビル3F

TEL043-238-2866

FAX043-238-2867

<http://www.cswchiba.com/>

E-mail: [office@cschwchiba.com](mailto:office@cschwchiba.com)

※点と線はメール配信でも読めます!

## 特集 私のソーシャルワーク論



『初心忘るべからず』、実は「初めの頃の感動や純粋な気持ちを忘れずに、ひたむきに物事に取り組み」という意味ではありません。(世阿弥:「花鏡」 奥段)

是非とも初心忘るべからず(福祉の道を歩み始めた時の初心忘るべからず)

時々の初心忘るべからず(新しい立場として歩み始めた時の初心忘るべからず)

老後の初心忘るべからず(老年に入った時の初心忘るべからず)

経験、職種、立場が違えど『人びとがその環境と相互に影響し合う接点に介入する』姿勢は不変です。終わりのない自己研鑽の集積が、個々のソーシャルワーク論の原点なのかもしれません。

### 《特集》

#### 2 私のソーシャルワーク論

中間管理職編

地域包括編

心は新米編

総評「ソーシャルワーク論を読んで」

#### 6 広がれ、こども応援のわ!

RUN伴千葉 体験記

#### 10 地域集会 船橋・鎌ヶ谷地区

#### 11 社会福祉士のわ

#### 12 事務局便り

# 特集 私のソーシャルワーク論

## 中間管理職編

我孫子市役所社会福祉課

鈴木 将人  
(すずき まさと)



「立場が人を育てる」という言葉に耳にすることがあります。この三年間、私はそれを実感しています。

生活保護のケースワーカー（以下、CW）としての九年、精神障害担当CWとしての二年を経て、平成二七年度から生活保護の査察

指導員（以下、SV）となりましたが、立場の変化を受け入れるまでには少し時間がかかりました。CWとしての仕事は、自分が動いて、相談者の自宅に行つて話を聞いたり、問題解決のために関係機関と連携して課題を整理したりと、その人が困っている状態を改善していくという明確な指針がありました。

SVとなつてからもその指針は変わらないのですが、相談者に直接関わることはとても少なくなりました。私が話を聞くのは、直接担当をしているCW達。SVの役割としては、CWに対して一、管理的機能、二、教育的機能、三、指示的機能があります。SVになった当初はこれらの役割を果たせるのか、不安がなかったとは言えません。しかし、冒頭の言葉通り、SVになつてからは、よりS

Vらしく振舞う必要を感じ、そうあり続けることでいつしかSVの三機能を自分なりに務めるようになりました。

正直に言うと、管理的な立場であるSVよりも、直接ソーシャルワークを実践できる（と感じられる）CWであり続けたい、と思つていました。しかし、SVらしくあるうとし続ける内に、今の自分の立場でその役割を果たすこともソーシャルワークであると考えるようになりました。

特に生活保護のCWの仕事は、権利擁護と給付管理の二律背反する原理の狭間でバランスを取り続けていくものです。これは精神的にもツライ。CWが対応に悩み抜いた上での相談を受けた際には、その決定が相談者のウェルビーイングを高めるものであれば後押しし、それが制度の許容範囲を超えていたり、給付抑制に偏つたものであったりすれば助言指導を行う。それがCW自身のエンパワメントにもつながりCWが変わっていくきっかけにもなっていく。こ

れはまさにソーシャルワークである、と感じるようになりました。

また、CWの仕事はケースワーカーだけではなく、膨大な事務量も同時にこなしていかななくてはなりません。CW一人ひとりの性格や事務処理速度も違う中で、組織として機能させなくてはいけない。やらなければならぬことは多いけれど、根性論を押し付けることもできない中で、組織や体制に働きかけていくことも現在の職責では重要な役割です。

訪問や面接で自席にいる時間の方が少なかったCW時代から一転し、現在はCWが悩んだり、面接や電話を受けている最中に相談しなくなればそこにいる、という状況を維持するため、なるべく自席にいられるように仕事を進めています。これからは組織体制として、CWが働きやすくなるように働きかけることが私自身の課題です。また、組織の中でのソーシャルワークについて、他の現場ではどのようにしているのかも知りたいと感じています。

## 地域包括編

千葉市あんしんケアセンター  
千葉寺 堀江 亜希子  
(ほりえ あきこ)



「いりませんよ、結構です。帰ってください。」

他者との交流を拒んできた一人暮らしのAさんに認知症の初期症状と思われる様子が見られ、民生委員さんから心配の声が上がり、訪問したときの彼の第一声です。

訪問を重ねるも「結構です。元気ですから、病院には行きません。」の繰り返しでした。ある日、民生委員さんから彼の生活歴を聞き、病院に対する不信感があることを知り、同時に「彼を専門医に

繋ぐこと」や「何かのサービスに繋げること」に躍起になっていた自分に気づきました。

十二月、「Aさんが自宅近くで転倒した。動けなくなっている」と民生委員さんより連絡が入り、

看護師と共に訪問し、受診を勧めました。しかし、彼からは「病院には行きたくないよ」という言葉。彼から病院に行きたくない理由をゆつくりと伺い、センター内で検討した結果、彼の意思を尊重することを優先しながら、福祉サービスの調整や宅配便の受け取りの支援を行なうことになりました。自宅へ毎日の様に訪問し、体調や食事の確認をしたり、宅配便の受け取りや暖房器具の調整などしたりしているうちに、徐々に「もう帰るの？また来る？」と笑顔を見せてくださいるようになりました。

一月、まだ腰痛が治まらないと言う彼のもとを訪問した時に、試しに「整形外科行ってみませんか？」と聞くと、笑いながら「病院かあ、来年行こうかな。」と。

我慢強い彼が医療機関を受診するのはまだまだ先のことだと思いますが、スモールステップでも、彼の歩幅に合わせて一緒に歩くことの大切さを実感しているところです。

ソーシャルワークの世界を歩み始めてから、約十五年。介護職員や生活相談員、ケアマネジャーを経て、現在は地域包括支援センターで社会福祉士として勤務をしています。様々な人たちに出会い、成長をさせていただき、嬉しい気持ち、悲しい気持ち、怒りをぶつけられることもありました。今でも「ああ言えば…」「こうしていたら…」と自分の支援に毎日思いを巡らせ、発展途上の自分と日々向き合っています。

そんな中、この一、二年は誰かに教えたり、学びや気づきの場を作ったりすることが増えました。

後進育成の機会が増えれば増えるほど、私の前にはいつも二つの壁が立ちはだかります。それは「言語化（思いや考えを言葉にする）」と「伝わる伝え方」、この二つの

壁です。

『自分の考えや思いを言葉にして、根拠を明らかにして、相手に伝わるように伝える。』

言うは易く行なうは難し…それを日々感じています。前述のAさんへの支援でもそうですが、「これを伝えなくては」「ここだけでもわかってほしい」と自分の考えや思いを伝えることに終始してしまい、目の前の人が何を知りたいか？どう理解をしているか？に思いを馳せることを忘れてしまうことがあります。利用者への支援・後進育成の場でも、常に目の前にいる人のことを想いながら、自分の思いを言葉にして、相手に伝えるように伝えることを心がけたいと思っています。それが、私のソーシャルワーク論です。



## 心は新米編

ケアハウス四季の里

生活相談員

岩間 太一  
(いわま たいち)



社会福祉士を取得し七年、特養で介護職を一年程経験し「どうせだったら社会福祉士として働きたい!」と、いきなり地域包括支援センターでソーシャルワーカーとしての経験をスタートさせたのが約六年前でした。

右も左もわからず、元々バンドマンあがりだった私はまず言葉遣いや記録など、基本的なマナーから学ばなければならないような仕上がりでした。「〇〇さんが〇〇

と言う……うーん、どうしたもんか。」と経過記録に書いてしまような始末(原文ママ)。

「勉強をしなくては」と、とりあえず手当り次第に勉強会や社会福祉士会の委員会活動に参加し始め、諸先輩方から知識や情報、ソーシャルワーカーとしての大切な視点や考え方を教えて頂きました。また職場の上司からの助言や、実務を重ねることも様々なことを学ばせて頂きました。四年ほど前には「初心を取り戻したい」「他職種にも対峙できるような社会福祉士としての根拠や知識を得たい」という想いから基礎研修を三年間受講し、現在はスーパービジョンを受けています。

異動によりケアハウスの生活相談員となり一年半が過ぎようとしています。初めて管理する側の立場として、組織・運営という今までにはなかった視点、マネジメントが必要だとつくづく痛感しています。

実務や研修、同職他職との協働

や交流により、六年前とは視点や知識量も多少変わった部分もあるかとは思いますが。しかし、知識が増えるほどに大事なことを忘れていた自分に気がきます。

「あなた、その人の気持ちを聴けるの?」

スーパービジョンでバイザーの方に指摘された言葉です。

課題解決に集中してしまったり、繋げることばかりに傾倒してしまったり、苦手意識から敬遠してしまったり、知識の押し売りになり、その人が本当に話したいことや気持ちを「聴く」という大事な部分がおろそかになっていたことに気付かされました。

どんな理論やモデルやアプローチも、まずはその人の話に耳を傾けることから始まります。その人のありのままの気持ちを引き出し、受け止めることで、お互いの信頼関係が醸成され、よりよい援助関係が生まれ支援に繋がる。それは対象者に限らず、その人の家族や地域、同じ職場の職員、他職

種、他機関に対しても同じことです。「その人の本当を知る」ということ。私達が耳にタコができるほど聞いてきた傾聴や受容や要約などの面接技法は、そのためにあるものなのだと今更重要性を噛み締めています。

「自分はソーシャルワーカーになれているのか」これが今の私のテーマです。今、私が一番知りたことであり、今一番、どんなヒーローよりもなりたいものです。

## 総評

## ソーシャルワ―

## ク論を読んで

専門学校専任講師

宮本 哲男

(みやもと てつお)



今回原稿依頼をお受けしましたが、私自身、経験が長いわけでもないのです、自分の人生経験からお話しすることをお許しいただきました。

まず、三人の文章を拝見して、大変すばらしい内容だと思いました。三人の方は行政、地域包括支援センター、ケアハウスに勤務されています。このことは、社会福

祉士が多様な福祉の分野で活躍されていることの表れだと思います。

次に個別にみていくと、鈴木さんは生活保護におけるソーシャルワークを自らおこなうだけでなく、CWに対するスーパーバイザーとしての役割を果されています。組織における後進の育成は大変大事なことです。現実に行政に

勤務しながら、上司等が社会福祉士の業務を理解していないがために、悩んでいる人が結構いるのではないかと思っています。一方で、管理職として組織や体制への働きかけや政策の決定に関与する立場になる事により、行政施策や法人等の運営とソーシャルワーカーの倫理綱領などとの二律背反にバランスをとっていくのは、これも大変なことだと思います。このことは、多くの管理職となった社会福祉士の方が直面して、自分なりに解決していかなければならない課題だと思います。

二番手の堀江さんの文章からは、絶えず自己のソーシャルワ―

クと向き合い、また後進の育成に取り組んでいる姿勢が見えます。

特に、利用者さんとの信頼の確立と利用者本位の考え方、ソーシャルワークにとって大切な「言語化」など基本的で最も重要なことに注意を払っているのがよくわかります。

今後、包括支援センターは「我が事・丸ごと新共生社会」の実現に、ますます重要になってきます。このような状況の中で、地域包括支援センターに勤務する社会福祉士のみならず全ての社会福祉士の役割として、個人だけではなく地域への視点が求められます。これも今後の大きな課題です。

三人目の岩間さんの文章中には、ソーシャルワーカーとして進むための重要な言葉がちりばめられています。自分の経験から多くのことを悩みながら学んでいる最中であることもよく読み取れます。「ソーシャルワーカーになれるのか」という岩間さん自身のテーマ、また、「あなた、その

人の気持ち聴けているの？」とのスーパーバイザーの言葉は、多くの社会福祉士の共通課題ではないでしょうか。

最後に、三人に共通しているのは、絶えず「ソーシャルワークとは何であるか」を考えながら仕事に向き合う姿勢、ではないでしょうか。

# 開催レポート 『広がれ、こども応援のわ!』

昨年度に開催された「広がれ、

こども食堂inちば」に続く二弾として一月二七日に船橋市民館で実施されたこのイベントは、こどもの貧困問題に焦点をあて、こどもを応援する活動につながるきっかけづくりをすることを目的に開催されました。

我々広報クルーが潜入して聞いたこと、感じたことを少しだけお分けします。



NHKスペシャル「見えない貧困」  
チーフプロデューサー 板垣 淑子氏講演  
「見えない貧困」  
いま、なぜこどもの貧困なの？」

NHKスペシャル「見えない貧困」のプロデューサーである板垣氏が、番組のための取材を進める中で直面した現在の子どもの貧困をテーマに、番組の映像を交えながら今の日本に警鐘を鳴らす内容の講演でした。私も「このままではいけない」と危機感を抱かざるを得ない言葉の数々であり、来場した方々も深刻さに固唾を飲むような空気ででした。

「進学で奨学金を借りる学生は今二人に一人、奨学金による自己破産が増えている」「高校生の約五〇%が家計のため、約二〇%

が学費のためにバイトをしている」という現状にもかかわらず、当人である学生達は親に恥をかかせたくない、友人関係に影響する、羞恥心などの理由から明るく振舞い、その現状が見えにくく同級生や教師も経済状況に気付くことができないということ、親の収入だけで見ると貧困世帯になる家庭も、子どものバイト代があるために数字上は貧困世帯に当たらない「相対的貧困世帯」が増えていること、「働かないと学べない」「合格は努力すればできるが、通学はお金がないとどうにもならない」「しんどい」と、まだ高校生の子達に言わせてしまう世の中になっていくことを知りました。

早朝家事や子育てをこなし、学校に通学し、バイトを夜中までして帰ってから勉強、毎日睡眠時間三時間の学生は、「兄妹には普通を」「家族を守るため」と進学を諦める。奨学金だけでな

く学費ローンも必要となり、高校生にしてローン地獄となる。それでも学費は上がり続けている。このように学ぶ機会が奪われている現状や、学ぶことで金銭苦に陥るといふこの事実を、我々大人達がまず知らなければならぬと訴える板垣氏の言葉は非常に重みを感じました。

負の連鎖を断ち切るためには、支援の輪を広げながら大きな渦となるムーヴメント、ソーシャルアクションを、今、待ったなしで行う必要があると思わせてくれた講演でした。(岩間)





未来につながるリレートーク  
「応援しよう！」

「こどもたちのいまと未来」

こどもたちを応援する様々な取り組みをしている方々にご報告いただき、私たちができる「こどもたちの未来を応援する活動」について考えるきっかけとしてリレートークが実施されました。

まず、お一人目の報告として、NPO法人ダイバーシティ工房の池田春奈さんから、地域の学び舎「プラット」の取り組みについてお話しされました。こちらの取り組みとしては、不登校やひとり親、発達障害、貧困などで生きづらさを抱える子どもたちを主な対象に、教室や塾に通える人は限られており、また、学習に限らない、より生活に近い場所が必要、という考えのもと、学習支援や居場所の提供などを行っている。今後は、ちよつと立ち寄れる場所がどこにでも、

をモットーに、子どもに限らず、多くの訪問者を増やして地域に根差し、中学校区に一つを意識して取り組んでいきたい、という熱い思いを話されました。

お二人目の報告は、松戸市教育委員会教育研究所 六実中学校スクールソーシャルワーカーの田中千鶴子さんから、学校と家庭と地域をつなぐ、何でも相談員として、日々の活動内容の紹介をされました。その中で、ネットワークは大事であるが、紹介だけでなくその後も一緒に歩んでいくことが大切であり、また、支援を展開していくにあたっては、子どもを中心に、子供の最善の利益を目指すことが大前提で、フォー スクールではなく、ソーシャルワークイン スクールという考えをとっても大切に行っているというお話をされ、普段あまり聞く機会がない貴重な内容でした。

三人目の報告は、「TSUGANO かわこども食堂」の田中照美さんから、こども食堂の立ち上

げから運営までの実体験をもとに、話しきれないほどのてんこ盛りの内容のなかから厳選して話をされました。ここのこども食堂では、「地域の中にある困り事を、他人事ではなく自分ごと」に」を原点到、外国人留学生やママさん、八百屋さんなども含めた地域を大いに巻き込み、様々なアプローチをしかけておられ、今後多様な視点からの展開を考えており、とてもバイタリティーを感じさせられるお話でした。

次の報告は、NPO法人ちばこどもおうえんだんの湯浅美和子さんから「こども・若者未来基金」についてお話しされました。この基金の目的は、千葉県内の社会的養護の下に暮らす（暮した）概ね三〇歳までの子ども・若者を対象に資金の援助をすることとしており、それ以外にも就職支援や住居紹介も行っている。この基金は、三つの生協から集められ、子供たちに寄り添う伴走者への支援も行うなど、草の

根活動のような形で、制度のはざままで苦しんでいる子どもたちへのかけがえのない取り組みをされています。



次の報告は、公益財団法人あすのばの学生スタッフとして活動されている花澤昂乃さんから活動内容のお話がありました。特に印象的だったのは、ここの法人は若者のスタッフが多く、自分たちが経験したことを下の世代に伝えていきたいという「恩送り」の精神を大切にし、大人になりかけている子どもに近い私たちだから発信できることがある、という思いで、若者を中

心に型にとられないとてもユニークな活動を展開している印象を受けました。

最後の報告は、船橋市「保健と福祉の総合相談窓口さーくる」で就労支援員として活動されている渡邊美津代さんから、若者の就労支援に関してのお話をされ、この中でもとても感心させられた内容がありました。それは、就労支援するにあたって、本人だけではなく、家族まるごと同時並行で支援していくということです。これを行うには必然的に幅広いネットワークや知識とスキルが求められ、とてもやりがいのある活動であると感じました。

終りには、各報告者と板垣さんとのセッションが行われ、皆さんが活動していく中で共通して感じることで、いまだ支援につながっていない人が沢山おり、一人でも多くの人に救いの手がつながってほしいとのことでした。これには、これから周知していくことが重要なことと思われませんが、なかには本人が支援されることに対しての

恥じらいや罪悪感など、様々な思いが壁となっているケースもあるということ、私たち一人ひとりにこういった人たちが支援につながりやすくしていく工夫が必要となっている状況があると痛感させられた内容でありました。(吉田)



## らんとも RUN伴 千葉 体験記



RUN伴とは、二〇一一年からNPO法人認知症フレンドシップクラブが実施してきた「全国すべてのまちが、認知症になっても安心して暮らせる地域になることを目指して、認知症の方と一緒に「行うタスキリレー」です。

昨年からは千葉県でも十二市で開催され、総勢一四一四名がランナーやボランティアとして、お揃いのオレンジTシャツを着て参加しました。

私たち社会福祉士の仲間も、各地でランナーやボランティアとして参加しましたので、その声をお届けします。

## 四街道市

同じシャツを着て、同じ思いを世の中に発信する。走ることを通じて、全国の仲間とつながる。これもソーシャルアクションなのですね。楽しかったです。(神山 裕也)





## 浦安市

青い空の下、海風を感じ『がんばれー!』の声援をうけながら参加者全員の名前が刻まれたタスキをつなぎました。車イスで参加されていた方がタスキを受けた瞬間立ち上がり、自分の足で一步一步踏み出す…という姿が見られたり…。参加者も、沿道で応援をする方も、誰もが笑顔であふれていました。そして最後は皆で手を繋ぎゴール!最後にタスキを受けたAさんはこの日が誕生日!久しぶりにみんなに会えて、一緒にこんなに楽しく走らせていただいていたと素敵な笑顔で話してくれました。

浦安の詳しい様子は浦安に住みたい  
畠版に写真も合わせたたくさん載  
せていただいています。  
<http://sumitai.ne.jp/urayasu/2017-09-15/47842.html>

(樽林 元樹)



## 柏市

『あのオレンジのTシャツの人たちって、何だろう?』  
通りすがりのランランを知らない人に、福祉に興味のない人に、認知症について知ってもらおうきっかけになるかもしれない。参加できて良かったと思います。(大橋 美和)



### 2017. 9. 10 RUN伴千葉に参加した12市の皆さん



R 船橋市



U 浦安市



N 習志野市



T 四街道市



O 佐倉市



M 松戸市



O 柏市



C 千葉市



H 旭市



I 市原市



B 八街市



A 我孫子市

# 地域集会

## 船橋・鎌ヶ谷地区

地域集会に参加して

服部地域福祉事務所  
服部 明(はつとり あきら)

○新しい繋がりが生まれる地域集会  
私は、平成二四年三月の社会福祉士試験合格発表後、まだ社会福祉士登録が済んでいない時点にもかかわらず、船橋・鎌ヶ谷地区の地域集会に参加しました。

定年退職後、地域と何の繋がりもないまま独立型社会福祉士開業を目論んでいた私は、県社会福祉士のホームページで同年三月末に地域集会が開かれることを知り、「人脈獲得のチャンス！」と参加しました。以来約六年、世話人の方々のタイムリーなテーマ選びや懇親会の楽しさに惹かれて参加し続けていますが、何よりの成果は、多くの方々と接する中で自分の経験だけでは知り得ない、社会福祉士の活動領域の多様さ、地域の課題の複雑さを知ることができ

たことです。船橋・鎌ヶ谷地区地域集会の寛容さ。世話人さんのお人柄を頼って、道に迷う社会福祉士会未加入の友人を誘ったりもします。

○えっ！こんな講師も・・・地域集会の様子

直近の地域集会は、平成二九年十二月九日(土)。テーマは『言語聴覚士とは何か』講師は一般社団法人千葉県言語聴覚士会会長の吉田浩滋さんでした。テーマ同様に、私自身も「言語聴覚士とは何者か？」というレベルでしたので、講師の分りやすいお話とカラフルでイラストの多いレジュメのおかげで、言語聴覚士の職務内容や介護予防・社会的孤立防止に果たす役割などについて、興味深く学ぶことができました。そうした講義内容以上に関心を引かれたのが、吉田浩滋さんが社会福祉士でもあり、千葉県社会福祉士の会員となつていてということでした。(点と線第九一号新規入会者紹介欄にお名前が！)。吉田さんは、集会後の懇親会にも参加され、「ソーシャルワークをやりたいから社会福祉士資格を取った」という親近感もあって、大いに盛り上がったのは言うまでもありません。

改めて、世話人さんたちのご尽力に感謝します。



○地域集会の活性化に向けて

今日までの社会福祉士としての歩みの中で、地域集会での出会いは、私にとつて大きな意味がありました。県社会福祉士会入会直後の七月に、JR津田沼駅周辺で開かれた習志野・八千代地区の地域集会に参加しました。入会直後でもあり、初対面の人ばかりでしたが、その中に弘永さんという大先輩がいらつしやいました。成年後見人の仕事をしたいと自己紹介をした私に対して、弘永さんは「船橋で、成年後見の事例研究会があるから、是非参加しなさい」と誘ってくださいました。ぱあとなあ千葉の成年後見人養成研修の受講資格すらない状況の私でしたが、弘永さんのご紹介で直後の研究会から参加を許されました。

「後見人報酬で年金生活にユトリと潤いを！」などと不純な動機も併



お問い合わせ(服部)  
hattori\_294@yahoo.co.jp

せ持っていた私でしたが、事例研究会で身上監護への熱い思いを語る先輩の皆様の発言をただ聞いているうちに、成年後見制度についての知識を得るだけでなく、私なりの成年後見人観、ソーシャルワーク観を少しずつ形成していくことができました。そして今、私は船橋成年後見事例研究会において、新しく成年後見人活動を始めた方や後見人のネットワークを広げたい方のために、研究会のテーマを決めたり事例発表者の交渉をしたりしています。残念ながら、習志野・八千代地区の地域集会は、諸事情により活動休止状態になっていましたが、何とか地域集会を再開させたい！幅広い繋がりの機会を！と、習志野・八千代地区の世話人をお引き受けしました。地域で活躍する社会福祉士の方々と準備のため話し合いを進めているところで、関心のある方はご意見・ご協力をお願いします。



# 社会福祉士のわ

佐倉市

佐倉地域包括支援センター

田尻 真人

(たじり まさと)

こんにちは、田尻です!!

最近、感動したことがあります。それは、日頃から尊敬をしている方から対人支援に関する本を譲り受けたことです!この「本たち」はただの本ではなく、その方の今までの経験や思いがたくさん詰まった「本たち」です。私はそれを譲り受けた時とても感動し「次を託された」と勝手に思っていました(もっと勉強しなさいということかもしれません・・・)。

ということとで「社会福祉士のわ」というバトンがまわってきました。社会福祉士になって八年が過ぎ、思ったことをそのまま書こう

と思います。

前職は料理人でした。それがなぜ社会福祉士を目指そうと思ったかという、単純に「笑顔がみたい!」という理由でした。今思うと、安直な考え方だったと思われるますが、ベースは今もそこにあると思います。

社会福祉士を取得しても、しばらくは介護の仕事が中心となっていたので、(資格は持っています)が社会福祉士の仕事がしたいなあ〜っと思っている時に、新しく生涯研修制度が始まり、受講しました。倫理綱領などすっかり忘れていましたが、基礎研修Ⅰをマスターすれば社会福祉士になれるんだ!と感動したことを覚えています(笑)

基礎研修Ⅱ・Ⅲを受講した時も、知らないことばかりで愕然としましたが、それと同時に楽しみにもしていました(知らない過ぎるのは問題ありかと思われませんが・・・)。それに加えて、研修を重ねることに他の受講生と親しくなり、情報交換や相談等ができたのも貴重なことでした。この時は訪問介護の

責任者をしていて、相談援助はやっておらず、うしろめたさみtainなものは感じていましたが、ヘルパーという職種を通してソーシャルワークを実践してやろうと思いました。自分らしい形で!!

基礎研修を通じて実にたくさんの気づきや出会いを持つことができました。そしてなにより、自分が研修委員会に所属するとは思っていませんでしたが・・・(笑)

最近思っていることで、職場では当然ソーシャルワークを実践しています。自分の住んでいる地域・自治会等においてもできるだけ協力し何かできればと考えています。

「お父さん会」という小学校の行事のお手伝いをする会が立ち上がり、積極的に参加しています。それは自分の子どもの成長をみるのと同時に、PTA・お父さん達と顔見知りの関係になって、いつか一緒に協力して何かできるんじゃないかという下心満載でやっていきます。

現在は、地域包括支援センター

に配属され、「笑顔がみたい!」だけではすまされないことが多々ありますが、先輩やいろいろな方の助言や協力をいただき、日々、大きくなっていきたいと思っています!!





長かった寒冬が終わり、待ちに待った春が来ました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。

さて、会員の皆様のご協力のもと、平成29年度第1回臨時総会を無事に開催することが出来ました。ご出席いただいた皆様、書面表決・委任状をご送付いただいた皆様、ご協力ありがとうございました。

年度末や年度初めの準備でお忙しい日々をお過ごしのことと思います。くれぐれもご自愛ください。

## 研修等・行事のお知らせ

※4月以降、順次開催する研修の申込案内をホームページに随時掲載致します。

また、新たに研修等が決定した際も、ホームページに随時掲載します。是非チェックしてください。

千葉県社会福祉士会ホームページ：<http://www.cswchiba.com/>

【以下、新年度研修予定】

- ・研修委員会-基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、実習指導者講習会他
- ・権利擁護センターぱあとなあ千葉運営委員会- 必須登録員研修、レベルアップ研修、成年後見活用講座、ぱあとなあ千葉サポート、テーマ別弁護士との事例検討他
- ・司法福祉委員会-刑事司法ソーシャルワーカー養成講座（基礎編）、（応用編）

## 会員の皆様へお願い

お名前・ご住所・電話 FAX 番号・お勤め先等が変更となった場合、変更届の提出が必要です。

入会時と変更がある場合は、お早めに手続きをお願いします。

※変更届は会員名簿巻末に様式がございます。FAX でも受け付けます。

## ようこそ！千葉県社会福祉士会へ

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
内藤 圭策	木更津市	—	江澤 利明	君津市	社会福祉法人 君津市社会福祉協議会
仙波 貴規	千葉市	株式会社 A.ver 就労移行支援事業所 リバ・サル本八幡	五十嵐 仁美	館山市	かにた婦人の村
佐々木 栄美	野田市	—	三上 光理	館山市	—
長谷 円	—	—	伊藤 麻帆	千葉市	—
大西 不二子	—	柏西口地域包括支援センター	濱田 竜也	柏市	江戸川大学総合福祉専門学校

正会員登録書「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。（順不同・敬称省略）

### 平成30年1月末現在の会員数

正会員 1,468 名、 準会員 4 名、 賛助会員 2 名 合計 1,474 名